

# 令和5年度 年間指導計画

㊦家庭I

A科:動物科学科 B科:植物科学科 C科:食品科学科 D科:人間科学科 E科:環境科学科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	学年・学科	I学年(ABCE科)
教科書	実教出版「家庭基礎 気づく力 築く未来」		副教材	実教出版「家庭基礎 気づく力 築く未来 学習ノート」			

学習目標	<p>○人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けます。</p> <p>○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養います。</p>
学習方法	<p>○授業課題に対して自ら考え、また周りの生徒と共同で考え発表するグループ活動を行います。</p> <p>○基礎的・基本的な技術を身に付けるため、実験実習を行います。</p> <p>○生活課題を解決する能力を実践的に身につけるための課題に取り組みます。</p>

	評価の観点	評価の観点の趣旨	学期	重み付け	割合	
					調査	調査以外
学習評価	a 知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	前期中間	35 %	20	15
			前期末	35 %	20	15
			後期中間	35 %	20	15
			後期末	35 %	20	15
	b 思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	前期中間	35 %	20	15
			前期末	35 %	20	15
			後期中間	35 %	20	15
			後期末	35 %	20	15
c 主体的に学習に取り組む態度(意欲)	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	前期中間	30 %	10	20	
		前期末	30 %	10	20	
		後期中間	30 %	10	20	
		後期末	30 %	10	20	

学期	単元名 (題材)	学習内容 (小単元)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法	
			a	b	c			
前期中間	第1章 これからの人生について考えてみよう	・ライフステージにおける発達段階について学びます。	○		○	a: 人生の各ライフステージの特徴と課題について理解している。 b: 自分の生活や将来について考えを深め、表現することができる。 c: 将来の生活設計について、意欲的に学習している。	・学習ノート ・実習記録 ・作品提出 ・定期調査	
		・こんにちの社会背景を踏まえて、具体的に生涯にわたる生活設計を考えます。		○	○			
	第2章 自分らしい生き方と家族	・自立した生き方、共に生きる人生について学びます。	○		○			a: 共生社会や労働の意義、家族に関する法律について理解している。 c: 自立と共生、労働、家族について関心を持ち、意欲的に学習している。
		・生活にかかわる労働の意義や役割について学びます。	○		○			
		・家族と家族に関する法律について学びます。	○		○			
	第3章 子どもとかかわる	・子どもの発達と子どもの生活について学びます。	○	○				a: 子どもの発達の仕方を理解し、基本的な技術を習得している。 b: 子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 c: 保育について関心を持ち、意欲的に学習している。
・親になることと、子どもが健やかに育つ環境について学びます。		○		○				

前期末	第4章 高齢者とかかわる	・高齢社会に生きる私たちの暮らしについて学びます。	○	○	a: 高齢期の特徴と社会保障制度を理解し、日常生活を手助けできる介助の技術を習得している。 b: 高齢期に豊かな生活を送るための準備について考えている。 c: 高齢社会と高齢者の生活について関心を持ち、意欲的に学習している。	学習ノート 実習記録 作品提出 定期考査
	第5章 社会とかかわる	・高齢者を知り、高齢者の自立を支える接し方について学びます。	○	○		
		・支えあう暮らしと、社会福祉について学びます。	○	○		
	第6章 食生活をつくる	・日本の食文化の形成について学びます。	○	○	a: 日本の食文化の成り立ちや特徴、栄養と健康、食品と調理、環境に配慮した食について理解している。食生活の自立に必要な献立作成や基礎的な調理ができる。 b: 自分の地域の郷土料理について、歴史や料理の作り方を調べてまとめることができる。環境や栄養に配慮した食生活について正しい判断ができる。 c: 食生活に関心を持って、意欲的に学習している。	
・食生活と栄養、食品のかかわりについて学びます。		○	○			
・食事の計画と調理について学びます。		○	○			
・食品の選び方と安全、これからの食生活について学びます。		○	○			
後期中間	第7章 衣生活をつくる	・人と衣服のかかわり、生活に必要な布製品について学びます。		○	a: 衣服材料や管理、快適な衣生活に必要な知識を習得している。基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。 b: 衣服の用途によって、適切な衣服素材を考え、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 c: 自分の衣生活をとりまく状況について関心を持って、意欲的に学習している。	学習ノート 実習記録 作品提出 定期考査
		・衣服の素材と、管理について学びます。	○	○		
		・快適な衣生活と、資源・環境について学びます。	○	○		
		・衣服の構成、デザインについて学びます。	○	○		
第8章 住生活をつくる	・人と住まいのかかわりについて学びます。	○	○	a: 日本独特の生活様式と、それに伴う住まいの特徴や住生活にかかわるために必要な知識を習得している。 b: 現代のライフスタイルやライフステージに応じた住まいについて考えることができる。快適で健康的な住生活の正しい選択ができる。 c: 住生活について関心を持って、意欲的に学習している。		
	・住まいの文化について学びます。	○	○			
	・健康的な住まい環境と、安全な住まいについて学びます。	○	○			
	・これからの住まいと住まいの計画について学びます。	○	○			
後期末	第9章 消費行動を考える	・消費行動と意思決定について学びます。	○	○	a: 消費行動における意思決定の過程や家庭生活と資源・環境について理解している。 b: 消費者としての自覚を持ち、具体的な事例を通して問題点や解決策を考え、判断することができる。 c: 自分が一消費者であることを自覚し、主体的に学習している。	学習ノート 実習記録 作品提出 定期考査
		・消費生活の現状と課題について学びます。	○	○		
		・消費者の権利と責任について学びます。	○	○		
		・ライフスタイルと環境について学びます。	○	○		
第10章 経済的に自立する	・暮らしと経済について学びます。	○	○	a: 家庭経済・国民経済などのしくみについて理解し、経済的な側面から人生設計を組み立てることができる。 b: 現在の経済社会と家計との関係を考えながら、適切な考えをもち、判断ができる。 c: 自分の経済的自立を考えながら、意欲的に学習している。		
	・将来のプランニングについて学びます。	○	○			
生活設計	・家庭基礎の学習をいかして、自分らしい生き方を設計します。	○		b: 家庭基礎で学んだ知識や技術を確認し、これからの人生を考え、設計できる。		